

「自立した学習者」の育成をめざす授業について考える

【小学校】初任者研修に係る校外研修「授業参観」(小) 令和7年6月19日(木) 【日田教育事務所】

◆**要旨**◆ <参加者>管内小学校初任者、教育事務所指導課員

○**目的**… 令和7年度初任者研修の対象者に対し、教科指導に係る授業参観・研究協議を通して、実践的指導力の向上を図る。

○**授業参観及び協議の視点**

「授業中における自立した学習者の育成について
～子どもを主語とした授業づくり～」

【協議の柱】・子どもを主語とした授業展開につながる教師の手立て、その効果について
・「努力を要する状況」の児童の見取り、個に応じた支援や手立ての工夫について
・深い学びにつながる「振り返り」について



授業の概要

◆小学校 第3学年 算数科

◆単元名 「あまりのあるわり算」 ※3時間目/全7時間

◆本時のねらい

「わりきれない場合における等分除の計算の仕方について、数量の関係に着目し、既習の除法を参考に答えの求め方を乗法九九と関連付けて考える活動を通して、あまりのある等分除でも乗法九九を使って答えが求められることを見だし、説明することができる。」(思考・判断・表現)

【問題】「あめが20こあります。3人で同じ数ずつ分けると、1人分は何こになって、何こあまりですか。」

【めあて】「一人分の数のもとめ方を説明しよう。」

【課題】「どのもとめ方がよりよいか？」

【まとめ】『A』は九九を使ってはやくけいさんができる
『B』は図や問題にあった考え方をしている

【振り返り】『 $\square \times 3$ 』の式で計算していたけど、はやく計算するときは『 $3 \times \square$ 』をつかっていたいな。」

受講者の学び(「アンケート」より)

【「自立した学習者」の育成に向けた手立て・工夫】

○**児童の主体性を引き出す発問・指示**

・「何を」「どこまで」「いつまで」やるのかを明確にし、活動時間を多く確保していた。
・「わかった人」ではなく「1文字でも書けた人」といった声かけで、自信を持って手を挙げられる環境づくりをしていた。

○**個に応じた学びの支援**

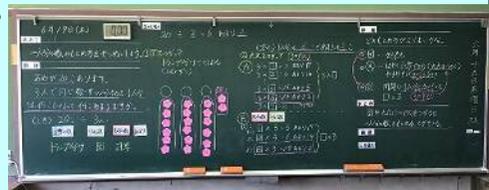
・図や式など、多様な選択肢から自分の考えを表現できるよう工夫していた。
・「トランプ分け」「かたまり分け」など、児童自ら方法に名前をつけることで、思い出しやすくするような工夫が見られた。
・ICTや教室掲示を活用し、児童が考えるためのツールを事前に準備していた。
・問題文への線引きを促し、「わかっていること」「求めること」の理解を促した。

○**対話を通じた学びの深化**

・教師がファシリテーターとなり、児童同士の意見をつなぎ、思考を促すような働きかけをしていた。
・同じ考えをもつ他の児童に繰り返し説明させながら、周囲の理解を促し、聞く力や伝える力を高めていた。

【学級経営・授業規律の重要性】

○児童がやることを理解しており、聞く・書く・話すことの切り替えがしっかりできていた。
○教師が軸をしっかり持って粘り強く指導しており、できたことを褒めることで、児童の自己肯定感を高めていた。



【今後の研修への期待】

○他校の授業を見る機会が年に一度でもあると良い。
○グループ活動による協議が新たな気づきに繋がり、とても有意義であった。

